



「臍ヘルニアのガーゼ球圧迫法について」



静岡赤十字病院小児科

大河原 一郎

第 2 号

臍ヘルニア、いわゆる「でべそ」ですが、新生児・乳児期(1 歳未満)ではよく見かけられる病気です。昔から「5 円玉をのせて貼り付ければ治る」などの迷信が言い伝えられています。しかし、これは金属アレルギーをきたすこともあり、現在医学的には誤りとされています。

自然に放置していても 2 歳までに 90% が自然に治るとされていますが、大きいヘルニアの場合、治っても臍の皮が余ってしまったり、見た目の問題が起こることがあります。そこで小児専門の外科医の先生方が考案した「ガーゼ球による圧迫法」がよく行われています。



この方法の良い点として、1 つめに自然に放置するより短い期間でよくなるということです。2 ヶ月で 70%、3 ヶ月で 90% が改善すると言われています。2 つめに見た目がよい状態でなおると言われています。3 つめによくならずに手術になる際に、手術が比較的かんたんにすむことがわかっています。

やり方です。①綿球を薬局で購入していただき、右上の写真のように臍に押し込みます。②左の写真のように臍を真一文字に閉じます。③最後に右下の写真のようにテープで固定します。この際テープはビニールテープ(よく TV でタレントの立ち位置を示すテープがありますが、あれです)がかぶれにくくてオススメです。

問題点としてテープで固定するため かぶれやおへその炎症 を起こしてしまうことがあります。1 週間程度 貼りっぱなしにするのがよいですが、かぶれた場合は短期間のみの固定で終了していただきます。予防としては貼る 位置をまめにかえる という方法がありますが、あまりかぶれがひどい場合はやめた方が無難です。

主治医の先生のお話をよく聞いていただいて、ご相談してください。



バックナンバーは HP で「診療科案内」→「小児科」→「小児科通信」で閲覧可能です！

<http://www.shizuoka-med.jrc.or.jp/section/diagnosis/pediatrics-4.html>



2007/9 月作成,2014/2 月改定



＜臍ヘルニア治療のポイント＞

圧迫法は早く改善しやすい

固定法がむずかしい

かぶれたり炎症をおこす場合がある

